

校長通信

東京都立戸山高等学校

校長 布施 洋一

創立130周年を迎えて

戸山祭前日の9月8日（金）、本校体育館において、「東京都立戸山高等学校130周年記念式典」が、厳粛かつ清新な雰囲気の中で挙行されました。

戸山高校の歴史は、明治21（1888）年の「補充中学校」の開校に遡ります。補充中学校とは、当時東京で唯一の公立中学校であった東京府尋常中学校（現在の日比谷高校）に欠員が生じた場合、学力優秀、品行方正の生徒を無試験で同校へ転学させ欠員を補充する学校という意味で、開校当時の生徒数は約80名、教員は5名でした。その後、共立中学校、東京府城北尋常中学校、東京府立第四中学校と校名変更を重ね、戦後は東京都立第四高等学校を経て、昭和25年に東京都立戸山高等学校となり現在に至っています。開校以来の卒業生は3万5千名を数え、社会のあらゆる分野の第一線で活躍していることは言うまでもありません。

ところで本校は平成17年に校舎落成記念及び創立118周年記念式典を挙行していますが、当時の佐藤徹校長先生は、記念式典に合わせて出版された小冊子の中で、平成13年の進学指導重点校と平成16年のスーパーサイエンスハイスクールの指定を「新制戸山高校発足以来の歴史に一時代を画する出来事」と評価されるとともに、進学指導重点校制度の開始前、都立伝統校の入試応募状況が定員割れが常態化するほど低迷し、大学合格実績も都内の私立中高一貫校に水をあけられる一方であったという現実に触れられたうえで、「都内の公立中学校に入学した都民子弟の6年度の希望大学への進学保証という、都立伝統校に課せられたこの当たり前の使命の復活が、進学指導重点校事業の目的であり、もちろんそれは、従来からの文武両道とともに果たされていかねばなりません」と語られています。

それから現在に至る本校の歩みを振り返ると、いわゆる難関国公立大学の現役合格者数が、平成20～24年は一年あたり平均11.8名であったものが、25～29年度は平均20.6名（直近3年間では25.3名）となり、部活動でも柔道部のインターハイ準優勝（平成20年度）、アメリカンフットボール部の関東大会第3位（平成25年度）、囲碁将棋部の2年連続全国優勝（平成27・28年度）等の快挙を達成しました。12年前の佐藤先生の言葉どおり、戸山の文武両道は極めて高いレベルで現実のものとなり、さらなる進化を遂げています。

このような現実を踏まえ、私は式典の中で生徒に高い目標を持つことの大切さを話しました。目標が低ければ達成するのは簡単ですが、それで満足してしまえばそれ以上の成長はありません。それに対して、十分な検討を行ったうえで掲げた高い目標であれば、より良い結果を得られる可能性がありますし、万一目標まで到達できなかったとしても、そのために行った努力は間違いなく人間を成長させ、次の新たな可能性につながります。130年間の歴史の中で、戸山の卒業生はそれぞれ高い目標を設定し、それを実現することで各分野のトップリーダーとなり、社会の進歩と発展に貢献してきました。戸山生であることに自信と誇りを持って、社会の第一線で活躍している先輩たちに続いていってほしいと心から願っています。

戸山高校は、諸先輩が築き上げてくださった自主自立の伝統を踏まえ、総合力重視と文武両道を二本柱とし、文系・理系を問わず幅広い思考力・判断力・表現力を育てる教育に、今後も全力で取り組んでまいります。各方面からの御指導、御支援をよろしくお願い申し上げます。